

# 義太夫

義太夫協会々報

第2号

社団法人 義太夫協会発行  
東京都中央区銀座 3-13-4  
真光ビル内TEL(541) 9155

## 年頭にあたり

副会長 豊沢仙広

謹んで初春のお喜びを目出度くお祝い申し上げます。

七十二年の元旦、初詣の人で大変な賑わいでした。皆々様さぞかし幸福をいたゞかれた事と……。この幸が今年日本の喜びになるようにお祈りいたして居ります。

東京の義太夫界は日々発展しております。

協会の仕事の「学校巡演」「義太夫教室」次々と努力して居ります故、賛助会員の皆様に、良い報告が出来るものと楽しんで居ります。

東京素義会皆様の御上達ぶりは、聴く度毎に目を見張るものがあり、今後一層の御発展を願うばかりでございます。

正会員は、毎月の上野本牧亭出演の勉強で

張切って居ります。二月は本牧亭改築おなごり興行で全員出演でございますので、お誘い合わせられ御来場下さいます様、お待ち申し上げます。

二月三日は三越ホールで竹本春華が、後援会長妣田圭子先生の御指導でリサイタルをしていたゞきます。上京して三年間の勉強が実を結び、始めて会をしていたゞく喜びは、本人はもとより私もこの上ない嬉しさ一杯で、共に精進いたして居ります。どの様に上達したか是非聴いていたゞき度く、宜しく御後援の程お願い申し上げます。

竹本土佐広さんの叙勲は、協会の面目と、一同大喜びであります。豊沢猿公さんは二年前に受賞、女義界愈々勉強して次々と名誉を



受けられる様祈ってやみません。私事ながら此度び藍綬褒章受賞の栄に浴しましたが、芸術でいたゞいたのではないので、祝賀会も辞退いたしました。懸命に勉強して芸術で授章出来る様に努力いたします故、今後共よろしく御支援の程伏してお願い申し上げます。

吉川会長は東洋音楽の研究・視察の為海外旅行中で、年頭の御挨拶が出来ませぬ事をお詫びします。よろしくとの御伝言でございます。帰られてからのインド方面の芸術報告の御挨拶をお待ちいたして居ります。

古典最高の芸術である義太夫の愛好者皆々様、各々様方の御発展と御健康をお祈り申し上げます、義太夫協会御後援の程御願ひ申し上げる次第でございます。

日舞・歌舞伎の伴奏者

竹本彌乃太夫

日本舞踊の興隆めざましい中に、その伴奏を支持つ邦楽、中でもわが義太夫部門ほど、人員払底の憂目を見ているものも他に類がない。これは日本舞踊のみならず、歌舞伎の義太夫伴奏者や文楽にも当然言えることである。

日本に歌舞伎がある限りその演目の多くは丸本歌舞伎であり、義太夫がそのウエイトをしめている。今迄は、歌舞伎の存続する限り義太夫の命脈もつながると安易に考えていたが、最近歌舞伎自体、古典からかなり離れた演目をやったり、各劇団の混成から女優を配剤したり、テレビドラマの延長の様な芝居を演ったり、その様式が大分変って来て、丸本物の需要が少なくなって来たので、義太夫の必要性を認めなくなつて来た感さえ起させる。況して歌舞伎の義太夫伴奏者が急激に減つて来た昨近、歌舞伎義太夫の潰滅も間近い。まだまだ歌舞伎劇は別な形で存続出来たとしても、義太夫の命脈が尽きてしまつては、歌舞伎の魅力も半減はおろか、喪失に近く、これはまことに憂うべき大問題である。何んと言つても歌舞伎のもつ醍醐味は、義太夫物なくして考えられないので、今の中わが義太夫協会としても手を打たなければならぬと思う。幸い文楽にも新しく歌舞伎と同じように、研修

生制度が誕生したことは結構なことであるが、それ以上に急務は、歌舞伎の義太夫伴奏者、いわゆるちよぼの養成である。今まで当事者はその養成に少しも力を入れていなかった。役者を育てることは分つていても、その役者に芝居をさせるちよぼの重要性が、あまりにも顧みられなかったが、此の際もつと真剣に考えたい。同じ義太夫だから、文楽あたりから連れてくれば簡単に間に合うとも思っているのだから、文楽のは本行系統の人形浄るりの義太夫であり、歌舞伎のちよぼや日本舞踊の地の義太夫は、役者に踊りや芝居をさせる為の義太夫であつて、根本的に相違しているので、新人が見付かつたとしても、仲々の養成が難しく、本行に比して寧ろそれ以上に難しい大事な仕事であると思う。たとえその文楽でさえも、新人の発掘に躍起となっている。今までは、あまりにも封建的の枠にとどめられていたために、特に人間尊重とか、生活保障とか、現代的風潮等という弊害が、これらを阻止しているのは否めない。

わが義太夫協会は、まだ国から予算を貰つていないが、何れそれに応えられる立派な仕事を、これら新人の養成という重大な仕事を含めて為されなければならぬ。現在、協会が擁している会員の中、職業人即ち正会員は個々の技芸活動はしているが、一環性の興行システムを持たない。そしてその90%が女性であり、公演として、毎月本牧亭の四日間の興行がその最たるものである。勿論これは、これなりに明治以後、東京に残された伝統的

とも言える女流義太夫の継承であり、義太夫の保存と発展に寄与している姿である。一方男性は、歌舞伎や日本舞踊の義太夫演奏者として個々の技芸活動に入っているが、前に述べたように、人員欠乏の末期的症状を呈している伴奏界、老化されつゝある現在の状態を考えると、現状維持が果して此の先何年続くかは、もう目に見えているし、それを思うと全く前途暗澹、寒心に堪えない。その回復策はないか、もともと此の世界では、古くから女性を敬遠しがちであるが、ウーマンリブの世の中、テレビやマスコミのお陰で、女性優位の時代に、女性のちよぼが、大劇場に本格的に出現するかも知れないし、或は、テープ録音の操作によるちよぼや、年々向上する音響技術を駆使した新方式による義太夫伴奏も、当然起り得る可能性がある。あくまで伝統的慣習を固守することもなさそうであるが、併しその是非はともかく、義太夫協会としても、歌舞伎や日本舞踊の義太夫演奏者をもっと広く把握し、一環性を持つてこれら、次代の義太夫人の発掘と養成、現行伴奏界の制度の改良改革、対外的なマネージメント等々、今後の義太夫界に対処すべき重要な案件の一つ一つを、会員相互間の交流によって討議し、新しい解決策に向つて努力して行きたいものである。大きな力の和が、何れ業界の発展につながるものと確信していますので、今後皆様様の御協力御支援をお願い申上げる次第であります。

(常務理事)



# 公宮

豊沢 松三郎

交通戦争と云う言葉の通り一步外にでると、車からでる排気ガス、騒音、交通事故、なかでも子供の事故は見るものの、胸をうつ思いである。小さな子供をもつ親は毎日表で遊ぶ子供に、車にきをつけて、車に車にと日に何回同じ事をいゝきかせている事か、事故ばかりか、大気汚染、河川と近海の汚染と我々の身のまわりには、生命の危険を感じる事ばかりである。このような社会的問題は別の時に考えるとしても、我が協会も社団法人に成って一年半たった現在、いろいろと問題が出ている、協会の連体仕事を一つ一つ確實、敏速に処理していくには若い人材が少ない事である。団体が大きくなれば、あたりまえのことであるが、現在大変に重要な問題が量的に非常に多くなってきている。理事のなかには演奏者としては、すぐれている人がおおいかもしれ

ないが、演奏いがいの仕事となると眠むっているがごとく、まったく色々な問題に対して音なしのかまえのようにみえる、このような状態がつゞくかぎり、現在協会の仕事を貴重な時間をさき懸命にやっている、数人の方々負担をかけている感じがするが、いつまでつづけてもらえることやら、不安である。そのいみでも、今年には理事一人々々が協会発展の為、各々問題を考え行動すること、協会内の眠むっているような公害がないよう、自滅的行為のないよう、がんばろう。

## 。。。。公演会のお知らせ。。。。

◎「心身障害児の為の慈善公演」

NHK厚生文化事業団と共催で、7月中旬に三越劇場で開催の予定。

◎「賛助会員の会」

例年の通り、三越劇場にて7月に開催。

◎「女流義太夫の会」

二十年近く親んできた本牧亭が改築されますので、二月のお名残公演の後、各所で毎月公演を致します。会員にはそのつど御案内致します。

三月公演 3月2・3日 5時より

雷中会館にて(浅草雷門)

詳細は事務所へお問合せ下さい。

## 役員表

会長	吉川 英史	理事	竹本 土佐広
副会長	豊沢 仙広		竹本 素八
常務	竹本 弥乃太夫		鶴沢 三生
	竹本 綾太夫		豊沢 猿公
	豊沢 松三郎		豊沢 猿三郎
理事	竹本 朝重		野沢 吉平
	竹本 綾華		
	竹本 越道		
	竹本 駒竜	監事	佐々木 明郎
	竹本 春華		鶴沢 重造
○各部署と担当者			
実技研究部			
1 本行部門	重造・土佐広・猿公		
2 伴奏部門	猿三郎		
二、義太夫教室部 常務理事三名			
三、公演部			
1 正会員	猿三郎・三生・素八・駒竜		
2 賛助会員	吉平・綾華		
3 本牧女流	越道・素八・朝重		
四、学校巡演部 土佐広・越道・駒竜			
五、編集部 綾太夫・春華			
六、資料部 佐々木・松三郎			
七、経理部 弥乃太夫・松三郎・朝重			
八、渉外部 仙広・綾太夫・綾華			
○事務局 綾太夫・橋本			



(昭和45年度) 収支決算書 (454.1~463.31)

(借方)			(貸方)		
定期預金		4,000,000	基本財産		3,000,000
普通預金		271,643	運用財産		1,100,000
現金		20,141	前受金		10,000
当座預金		64,250	預り金		957,000
備品		181,305	繰越金		34,605
郵便貯金		34,605	次期繰越		△461,661
未収金		68,000			
計	¥	4,639,944	計	¥	4,639,944
出演料		436,000	会費		668,000
会場費		394,000	寄付金		304,500
印刷費		277,430	事業収入		1,074,350
会議費		37,930	補助金		200,000
交通費		16,290	銀行利息		37,552
通信費		44,147	雑収入		103,350
消耗費		144,100			
事務務掛		84,500			
事務諸掛		11,270			
事務所費		146,650			
事務用品		49,120			
交際費		177,633			
ハコヤ・荷上		167,700			
慶弔費		502,313			
税金		25,500			
給料手当		320,000			
諸雑費		14,830			
次期繰越		△461,661			
計	¥	2,387,752	計	¥	2,387,752

昭和46年6月30日

社団法人 義太夫協会会長 吉川英史

◎ 上部は46年6月30日付にて東京都教育委員会へ提出の写しです。

賛助会員の会

(46.7.15) 三越劇場にて開催

出演料収入	190,000
寄付金	21,000
(収入合計)	¥211,000
会場費(三越)	40,000
祝儀(会場)	11,300
長谷川大道具	9,000
床世話	21,000
荷上	10,000
弁当	27,600
広告ポスター	2,100
車代	5,500
事務手当	20,000
雑費	555
(支出合計)	¥147,055
差引収益	¥63,945

慈善公演(チャリティショー)

(46.7.9) 三越劇場にて開催

寄付総計	¥166,673
(NHK文化事業団へ手渡し)	
当日の経費は協会負担	
会場費(三越)	40,000
大道具(長谷川)	8,000
荷上	7,500
広告ポスター	1,300
祝儀(会場)	10,000
事務雑費	3,330
計	¥70,130

協会の動き

昭和46年4月1日より  
昭和47年1月31日まで

〔昭和46年〕

- 4月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
重之助・春華・仙広他竹組出演。
- 4月2日 常務理事会 総会について。特  
に役員改選を検討。於弥乃太夫氏宅。
- 4月9日 常務理事会 前年度決算書事業  
報告書の作製。於弥乃太夫氏宅。
- 4月14日 常務理事会 今年度予算書及び  
事業計画書他作製。於弥乃太夫氏宅。
- 5月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
越駒・越道・駒竜・三生他梅組出演。
- 5月7日 「定例理事会」 総会についての  
打合せ他。於清澄庭園。理事11名出席。
- 5月11日 「定例総会」 於清澄庭園。  
午後5時開会。会長挨拶。前年度事業会  
計報告そして今年度事業計画と予算が練  
られた。次いで役員改選が行われた。( )  
別掲役員表参照。任期は三年) 会食後8  
時半散会。副会長以下30名出席。
- 5月12日 常務理事会 事務所移転の為の  
下見他。各部担当者の選定他。於新小松
- 5月20日 ストの為の理事会中止となる。
- 6月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
土佐広・素八・綾華・猿公他松組出演。
- 6月7日 常務理事会 翌日の理事会の準備・公演会の企画等。於弥乃太夫氏宅。

- 6月8日 「定例理事会」 常務理事及び各  
部署の担当者選出(別掲)。公演会の打  
合せ他。於新小松。理事13名出席。
- 6月10日 事務所移転
- 6月17日 事務所開き 理事他10名出席。
- 6月29日 常務理事会 各公演会の準備打  
合せ。於事務所。
- 7月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
重之助・朝重・歳栄・清三他竹組出演。
- 7月9日 「心身障害児の為の慈善公演」  
詳細は別掲。於三越劇場
- 7月15日 「賛助会員の会」  
三越劇場にて。義太夫の他小唄・端唄、  
長唄・清元・舞踊等計26番。聴き手もか  
なりあって盛会。収支は別掲の通り。
- 8月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
越駒・越道・仙広・津賀昇他梅組出演。
- 9月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
土佐広・光末・猿公他松組出演。
- 9月15日 NHK第二放送にて「女義サワリ  
集」放送。(7月27日録音)
- 10月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
重之助・春華・駒之助・三生他竹組出演。
- 10月5日 NHKステレオ鑑賞会に「女流掛  
合の紙屋内」を放送。(9月20日録音)

- 11月1日〜4日 女流義太夫本牧亭公演。  
越駒・駒竜・三生・駒登久他梅組出演。
  - 11月10日 「定例理事会」 学校巡演他事業  
の打合せ。於新小松。理事9名出席。
  - 11月11日 常務理事会 会費の振替口座を  
作る。於事務所
  - 11月17日 常務理事会 義太夫教室の企画  
と祖先祭の打合せ。於事務所。
  - 12月1日〜4日 女流義太夫師走合同公演。  
吉例の「忠臣蔵通し」を掛合を中心に毎  
夜配役・演目替り総出演にて賑やかに興  
行。四日間大入り。於本牧亭。
  - 12月14日 常務理事会 会費・学校巡演・  
借入金・新年会等の打合せ。於事務所。
  - 12月24日 常務理事会 副会長との意見交  
換・祖先祭の打合せ等。於新小松。
  - 12月25日 「祖先祭」 11時本堂にて読経。  
正午祖竹本義太夫師他多数の先輩諸師の  
墓参。12時半別室にて懇談会。1時半散  
会。於両国回向院。会員33名出席。
- 〔昭和47年〕
- 1月5日 仕事始め。初詣旅行会通知出す。
  - 1月17日 「定例理事会」 義太夫教室の細  
目決定その他。於事務所。理事10名出席。
  - 1月21日 常務理事会 会報(現号)の編  
集他。於事務所。
  - 1月24日 編集部会 割付他。於事務所。
  - 1月25日 新年会に代る初詣バス旅行。
  - 1月31日 会報(現号)発行。

〔企画だより〕

☆学校巡演のこと。本年の仕事始めとして、協会事業の一つ、中高校生を対照とした義太夫節の学校巡演を、左記文書により、都内私立の中学高校計三百枚、及び公立の中学高校計五百枚に案内しました。幸い早速二、三の学校からの申込がありました。

：(抜萃)先年国語研究会において、二松学舎大学教授飯塚友一郎博士(演劇学)の御講演のあと、本協会が、高校古典の教材に現在最も多く採られている浄瑠璃作品として、現行の改作ではなく、近松門左衛門原作による、『冥途の飛脚』新口村の段を演奏し、国語科の先生方にお聴き戴きましたが、そのときの出演者、往年の近松研究会の主宰、野沢吉二郎師(文楽座出身の三味線弾きで、優れた浄瑠璃研究家)も、八代目豊竹湊太夫師(協会元理事長)も共にこの両三年のあいだに相次いで物故致しました。この間毎月一日から四日までの女流公演(於上野本牧亭)のうち、『仮名手本忠臣蔵』の通し公演及び『柳』を国語科音楽科の諸先生に二度お聴き戴きましたが、故人等の生前の努力が結実し、義太夫協会も四十五年夏、戦後永い間の懸案であった法人化が実現したのを機に、四十六年春から義太夫節の学校巡演を行っております。

九十年前、学校教育において音楽教育が発足するときに忘れられた日本音楽も、ようやく近年になって小学校でその観賞が授業に採入れられるようになり、四十七年度から中学校の教育課程でも『三十三間堂棟由来』柳の木遣音頭の件りを、義太夫節―太棹三味線音楽の鑑賞に採上げることになりましたが、義太夫節には『新版歌祭文』野崎村のダイナミックな曲(段切り、船と駕籠との表現)や、その他優れた三絃演奏が数多くあります。協会では、柳を機会あるごとに上演致します。なお、新口村もなるべく回数多く上演の予定であります。国立劇場の高校生のための音楽教室や毎回本院本物のカブキを上演している歌舞伎教室でも、若いグループ『日本の音』主催の小学校巡回邦楽公演でも、初めてこれらの古典芸能に接した生徒児童の皆さんの感想文を読みますと、皆一様に深い感銘を受けているようであります。外国人でも深く理解する人があるほどで、日本人が解らないというのは食わず嫌いに過ぎず、こどもの場合でさえ、やはり『血は水よりも濃い』という感を深く致します。

文芸・演劇・音楽のすべての面で、日本の庶民の生活感情を最もよく伝え、表わしているこの優れた芸能を、是非共高校生、中学生の皆さんにお聴かせ致したく、この企画を実施しております。(以下略) 以上の様な具合で、逐次テキストも作成し、出演者の割振

等を調べ、学校巡演も活発に軌道にのる運びとなりました。

☆義太夫教室のこと。

ちらし広告で御案内の通り、協会事業の一つである義太夫教室が開講されます。若い人達の間で邦楽に関心を持ち始めて来たことは喜ばしく、その中であって一時途絶えていた義太夫教室を、今回は初級コースとして、毎週水・金午後六時より八時まで、講演と実習を、義太夫協会事務所で行います。講演は吉川英史氏と佐々木明郎氏が交代で邦楽史や義太夫概論等三十分。実習は鶴沢三生師がさわりを、豊沢猿三郎師が抜萃小曲をそれぞれ曜日に分けて担当し、内容は、さわりは先代萩、壺坂、寺子屋、又抜萃曲としては、柳の木遣、太功記十段目、を予定して、今担当者がテキストのガリ版刷やら会場の整備やら、ちらしの配布やら、各種宣伝に大忙しです。特にちらしは国立劇場や歌舞伎座始め各大学演劇部や関係者等へ撒きましたが、果して此の中何人見えるやら今から大きな期待を寄せています。

郵便振替口座開設

四十六年度会費も、皆様の御協力で順調に納入戴いておりますが、これから納入の方は、郵便振替口座、東京一〇〇六八四、を出来るだけ御利用下さる。



# 義太夫と舞踊

豊沢猿三郎

今から五十年前には、踊りの会といえは、各師匠のお宅とか、精々常盤木倶楽部、大会と成って日本橋倶楽部位で、現在の様に歌舞伎座其他大劇場で演る様に成りましたのは、大震災後の事でありませぬ。舞踊の伴奏に義太夫が盛んになりました頃は、巖太夫氏が全盛でした。

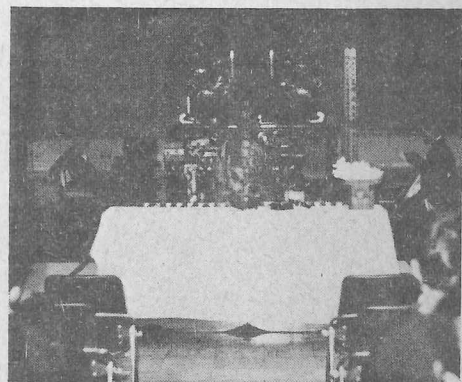
御承知の方もおいででしょうが、あの鍛練された、振るゝ付く様な粋なので、主体の舞踊より、観客を義太夫に引き付けたものでした。今日でも、流行仕で居ります吾妻流のお七の部屋を作曲致しまして、巖太夫氏に語って頂いた時なぞ、フアンを沸かした物でした。自然掛持も多く、卅五年前前日比谷公会堂で、先々代花柳寿美氏の山姥を作曲・上演しました折等、会の時間が大分遅れましたので、道具替りの暗転の内に、舞台を降りて仕舞いましたので、止むを得ず、連引の扇之助君を太夫に廻して穴を埋めたのでした。それでも、第一劇場の舞台を三十分も穴をあげましたので、翌日の都新聞に遅れ太夫と、大々的に書かれました。巖太夫氏はまだ、それ

程社会的に認められて居たのでしよう。其後は、鏡太夫氏等が舞踊会で活躍仕たのでした。今日では、弥乃太夫氏も、若いよい頭脳の持主です故、今後大いに進出して頂き、私の年迄は、約三十年近く有り。松三郎君も、和孝氏の息。孝二郎君も共に未だお若い事故、大いにお父さんなり、先輩に師事して、益々勉強・研究して下さい。今日の時代では、数千人の客の前で義太夫をお聞かせするのは、舞踊の伴奏に依る他有りませぬ故、若い方の発奮を期待仕てやみませぬ。

## 事務所のこと

昨年事務所が移転しましたが、場所は歌舞伎座と文明堂売店の間を入り、一つ通りを越して左側平凡出版社並び真光(しんこう)ビルの上階です。一階は「欧風料理のりこ」というレストランです。午前十時より午後六時位まで日・祭日はお休みです。  
近く迄いらした方はお寄り下さい。

## 祖先祭に思う



竹本義太夫の墓が、本所回向院境内にあることは周知の通りである。東京の義太夫人は古くから年に一度、祖先祭の名のもとに、竹本義太夫さんの墓詣りをする習慣になつていたので、社団法人となつた今日でも、協会として此の行事を欠かさず実行している。とりも直さず我々が先祖の霊を弔うのと同様に、義太夫芸術に携わる人々は、年に一度の恒例竹本義太夫の祖先祭に一人でも多くの方のお詣りを願いたいものである。そしてその偉大な芸術家である竹本義太夫の威徳を偲び、今日の業に専心出来る喜びをともに分かちたい。猶祖先祭は例年十月十日、昨今は十二月に行っているが、実際に命日を中心に法要を営みたいと思つている。

|| お知らせ ||

○新しく加入された会員

○電話の新設・変更

○病気のお見舞

◇竹本小津賀さん

一時も早い御回復を願います。

○亡くなった方

●富塚喜松氏（賛助会員）46年5月22日歿

●橋本三司氏（ ）46年7月12日歿

●中馬馨氏（顧問）46年11月中旬歿

●白井四郎氏（賛助会員）46年12月16日歿

四霊位の御冥福を只々お祈り申し上げます。

○寄贈して下さった方

◇豊沢 仙広さん 肩衣・袴十枚組

◇豊沢 瑩緑さん 貴重なレコード多数

◇竹本土佐広さん 細三味線二挺・箱共

◇野沢 吉平さん 太三味線一挺・撥共

○協会備品の御利用について

肩衣（本行用の肩衣・本袴各種）

”（舞踊用の肩衣・前掛一組三挺三枚）

テープレコーダー（ソニー製大小二台）

スライド（キャンビン製一台）

三味線（細棹二挺・太棹稽古用数挺）

会員の方には、廉価にてお貸し致します。

（例えば舞踊用肩衣は一日五〇〇円等）

○頒布について

三味線糸 一箱二〇〇円（丸三製）

テープ（カセット他各種） 仕入原価

バチ紙 一束一〇〇円

石州半紙 一帖六〇円

○改名

◇豊竹阿弥太夫（日置）↓竹本綾太夫と改

名

○声の履歴書について

三年程前より竹本喜久太夫さんが、録音

機を持って正会員及び賛助会員の履歴そ

の他を収録してはいますが、中には亡くな

った方もあり、誠に貴重なものです。そ

れを次号から二人位つつ活字にして掲載

致します。御期待下さい。

編集後記

昨年発行予定の会報第2号を、遅まきながらお届けします。

編集者常務理事の多忙な為、本年に持越され

たことをお詫びします。今回は、会長がイン

ド旅行中なので原稿が得られず、次号にその

紀行文を掲載する予定です。又例年の新年会

は、趣きを変えて、バス旅行で香取鹿島、並

に成田山の初詣りを計画しましたが、この旅

行記も次号に掲載します。